



# 「サケくん また会おうね！」

黒小・堀小が普代川河口で稚魚放流



稚魚のサケの黒小の児童28日、児童14人と教職員、父母25人が参加。児童たちは、昨年12月に自分たちで採卵授精し、学校の水槽で大切に育てた稚魚約2千匹と村漁協からいただいた約3千匹に「元気で帰ってきてね」と声を掛け、大海を目指す稚魚を見送りました。

黒崎小学校(大洞晴洋校長、児童14人)と堀内小学校(田村えい子校長、児童51人)海づくり少年団(畑俊輔団長、団員25人)が、普代川河口のサケ供養塔前で、サケの稚魚を放流しました。

黒崎小は4月「たくさん帰ってきて、卵を産んでほしいです」、堀内小5年の赤坂千夏さんは「稚魚がまた川に戻ってきてほしいと思います。放流しました」と、4年後の再会を願っていました。

自分たちでふ化させたサケの稚魚を放流する黒崎小の児童

黒崎小の命の大切さを学ぶサケ教育は昭和57年から続けられ、堀内小では海づくり少年団の活動の一環として、採卵授精は4年目、放流は今年初めて行いました。

6/1は人権擁護委員の日

## お気軽にご相談を



6月1日の「人権擁護委員の日」に合せて役場で、人権に関する相談所を開きます。いじめ・体罰・家庭内の問題や近所とのもめごとなど、広い分野で皆さんの相談に応じます。

皆さんの相談を受ける相談員は、法務大臣から委嘱された旭日区(あさひ)の佐藤勲さん(☎35-2808)、太田名部の釜

谷壽人さん(☎35-2770)、中央区(ちゅうぶ)の和村淑子さん(☎35-2446)の3人の人権擁護委員です。

相談は無料で、秘密は固く守られます。難しい手続きもありませんので、一人で悩まないで、お気軽にご相談ください。

●日時 6月1日、10時〜16時  
●場所 普代村役場内

「じょうぶな歯 いつもごはんが、おいしいね」をスローガンに6月4から10日まで「歯の衛生週間」が始まります。

体の健康は、歯の健康から始まります。歯が駄目になると、動物の場合、たとえライオンであろうとも死んでしまいます。歯を失った動物は獲物を捕らえることも食べることもできなくなるからです。

若い人では、痛みが出たりしないと、歯の存在をあまり意識したりしません。40歳を過ぎると、歯周病などで歯が動いたり、堅い物が食べにくくなる人が多くなります。また、熱いもの、冷たいもの

周病を早期に発見し、治療を受けるように心掛けることが、歯の健康を保つためには必要です。

ここで普代村国保歯科診療所のシンボルマークを紹介いたします。このシンボルマークは村出身の宮本美奈さん(東京在住)に、普代村の海・空・

心と体に話し!

### 無くして知る 歯のありがたみ



歯科診療所シンボルマーク

歯がなくなっても生き長らえるのは、人間だけです。歯科医のもとで入れ歯を作ってもらうことができますし、堅い食べ物も軟らかく調理することができます。

が歯にしみて、初めて虫歯や歯周病になっていることに気が付きます。歯がなくなれば、初め後悔する人が多くいます。

定期的な歯の健診を受け、歯を失う原因となる虫歯や歯

(サケ・ウニ・ワカメ)と歯を表現し、デザインしてみました。今後もシンボルマーク、歯科診療所をよろしく願います。

歯科衛生士 石花千枝

※次回は医科診療所です。